

## 琵琶湖・瀬田川の水質概況速報(平成 20 年度第 2 四半期)

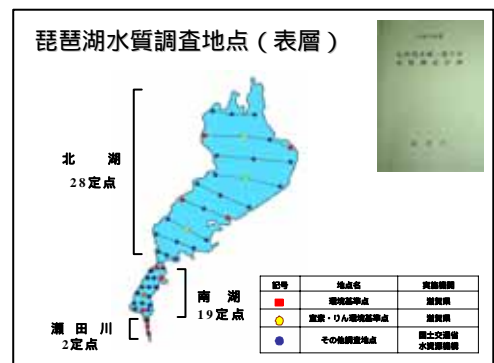
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき琵琶湖および瀬田川で、採水、水質分析を実施しています。このたび、平成 20 年度第 2 四半期分について水質概況速報がまとまりましたので、水質概況報告します。

なお、琵琶湖・瀬田川水質は、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値が、後日、修正を加えられる可能性があることをご了承ください。

### 調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所と当センターで協力、分担し表層 0.5m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の北湖深層部における水深別調査は、当センターでは今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央(通称「17B」)において、月 2 回実施しています。



### 調査結果について

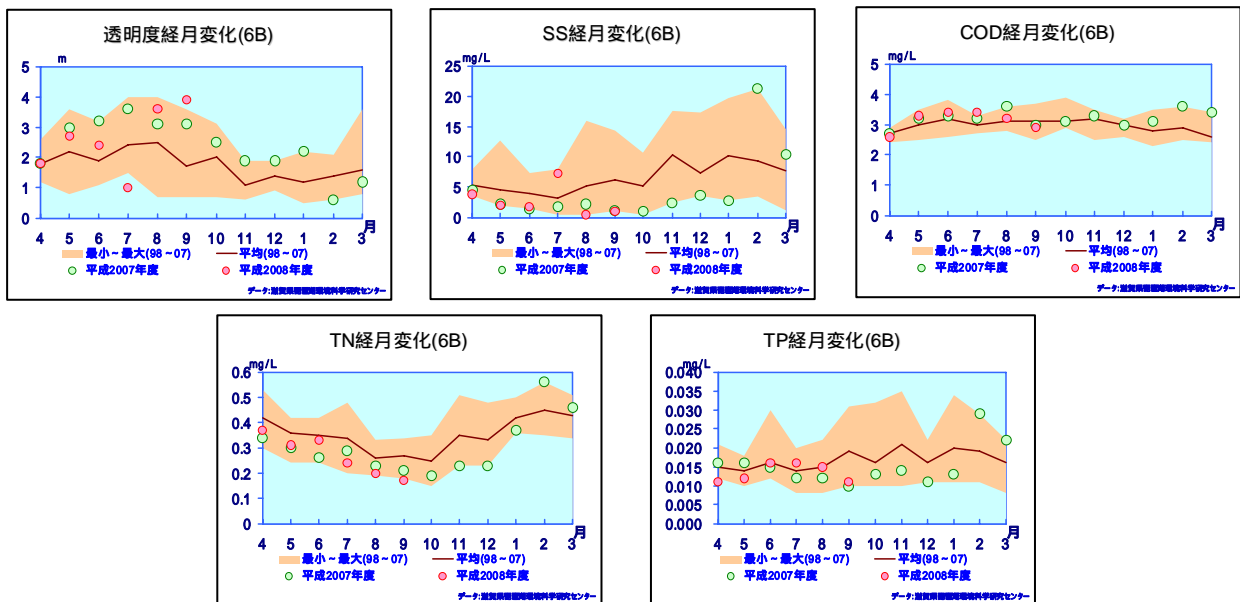
琵琶湖北湖の代表点として 17B、南湖の代表点として唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 20 年度第 2 四半期までの水質概況はつぎのとおりです。

#### 唐崎沖中央調査結果

透明度については、7 月は粒子状物質(SS)の影響により、過年度(過去 10 年間)では最低値でしたが、8 月・9 月は過年度に比べ高めに推移していました。透明度に影響を与える SS の推移を見ると、SS が低い値のとき透明度が高くなるという傾向が見られ、透明度と SS は連動した推移が見られます。

有機物指標である COD については、7 月において COD の上昇がみられましたが、8 月・9 月には過年度平均並の推移が見られます。

富栄養化項目である全窒素は第 1 四半期に引き続き過年度平均値より低めに推移する傾向が見られます。また、全りんは 7 月・8 月は過年度平均並でしたが、9 月には昨年度と同様に過年度平均値より低い値となりました。

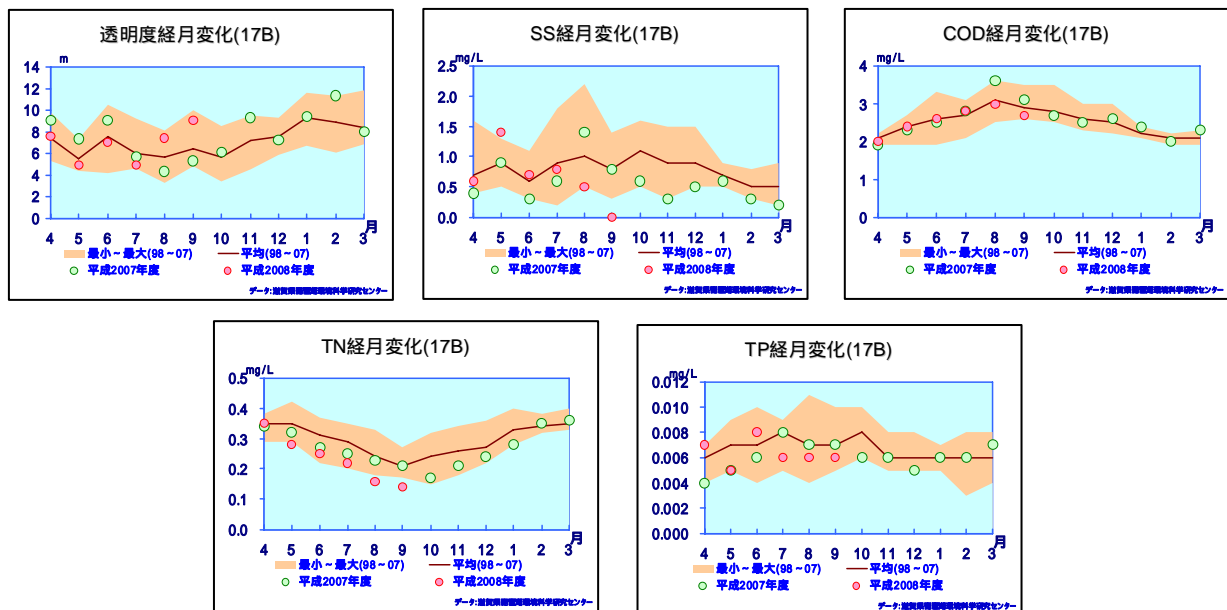


### 今津沖中央調査結果

透明度については、過年度平均値並の推移でしたが、8月・9月は高めに推移しました。SSの推移を見ると、過年度より低い値でした。

CODについては、昨年度、過年度並の推移を示しています。

全窒素は過年度平均値、昨年度より低めに推移しました。また、全りんについても、第2四半期は過年度平均値より低い値で推移を示しています。



さらに詳しいデータはこちらから検索できます。 <http://www.lberi.jp/root/jp/22db/bkjindex.htm>

(問い合わせ先)

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

環境監視部門 水圏担当

TEL: 077-526-4255 FAX: 077-526-4803

E-mail: dc31400@pref.shiga.lg.jp